

「富国有徳の美しい“ふじのくに”」を目指して・・・

第30号

富国有徳の美しい“ふじのくに”



県庁のしごと改革ニュース



「速く」、「ムダなく」、「いい仕事」

30年度の「ひとり1改革運動」の取組成果を御紹介します！

静岡県では、職員一人ひとりが自ら考え、身近なところから改革・改善を実践する「ひとり1改革運動」に取り組んでいます。

平成10年度から始まった運動は、30年度で21年目となりました。21年間の取組件数は約26万9千件となり、経費の節減や時間の節約、県民サービスの向上に大きな成果を上げています。

平成30年度の取組件数は18,708件でした！

取組効果は、**70億3,568万円 + 27人 + 6,915件！**

節約と経済効果

46億2,191万円の事務経費を節減

例：これまで一律に高コストの「高濃度」として処分していたPCB廃棄物を、濃度分析により低コストの「低濃度」の廃感圧紙を分別して廃棄することにより、5億6,832万円分の事務経費を削減

5万1,588時間の事務時間を節約（職員27人相当）

例：公共工事の設計書開示事務について、Web上での申請に対し設計書データを自動で請求者にメール送信する仕組みを導入した結果、年間6,200時間の事務時間を節約

24億1,377万円の経済効果が発生

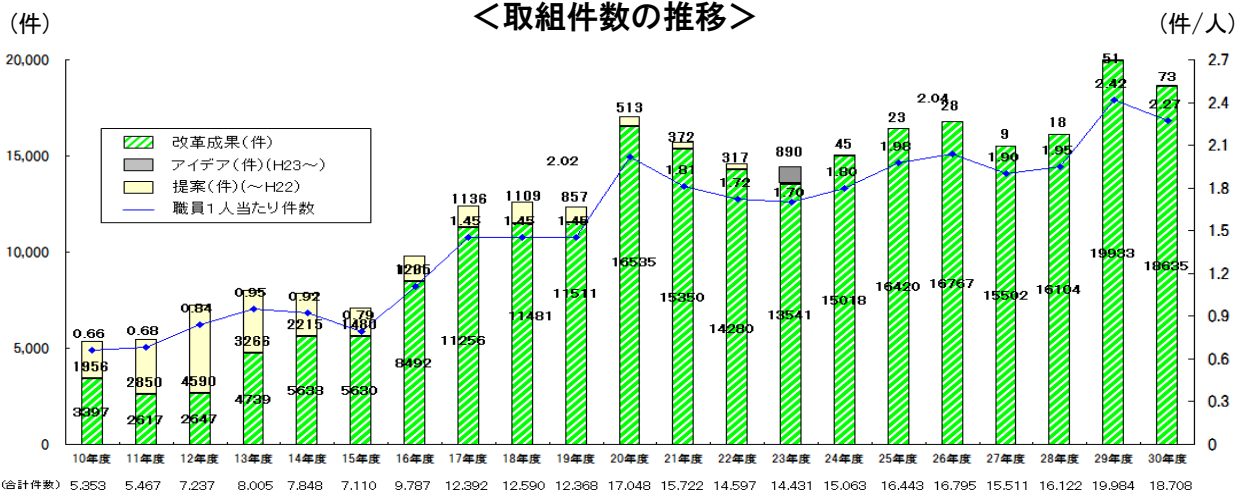
例：農林大学の学生がNPOと協働し、竹チップ堆肥の発酵熱を活用した黒にんにく製造をビジネス化（2019年度に事業開始。売上試算600万円/10a）

の向上
県民満足度

県民の皆様の満足度が向上した取組 6,915件

- （例）・地元や民間企業と連携して地域資源の活用を図り、農山村体験ツアーなど数々のコンテンツを作成
- ・道路台帳をインターネット公開することで、誰でも県庁への訪問を要せずに台帳の写しが入手可能
- ・自動車税減免申請書に予め「別紙のとおり」等の記載をすることで、窓口での記入時間を短縮

※ 効果額等は、取組成果のひとつの目安として、見込みも含めた各所属の自己申告値を集計したものです。



視点を変えた情報公開とICT化で、年間6,200時間の事務削減

【最優秀賞】【県民奨励賞】

ICTの利活用大賞

【交通基盤部 建設技術企画課】

【情報開示のICT化で事務時間を年間6,200時間削減】

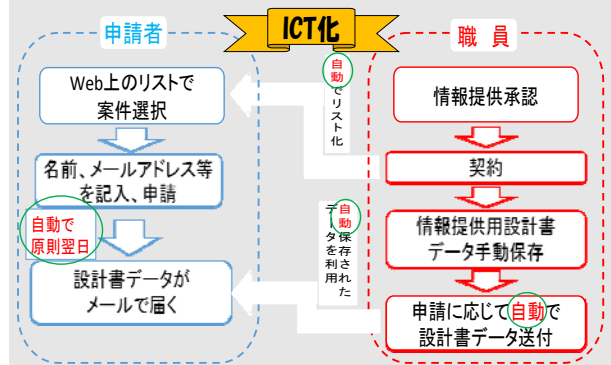
公共工事の設計書「開示請求」（年間2,000件）に要する事務時間の削減を目指し、「公表」に向けて検討したものの抜本的な改善には至りませんでした。

そこで「情報提供」へ視点を換え、さらにWeb上での申請に対し設計書データを自動で請求者にメール送信する仕組みを導入しました。

その結果、職員の開示事務にかかる年間6,200時間の節減と、無料かつ申請翌日の迅速な提供ができ、県民サービスの向上が図られました。



検証の結果得られた仕組み



【静岡産業大学 小泉 教授 から一言】

ICTの活用ではICTに合わせて業務のプロセスを見直すことが重要です。本件では、業務の根本となる条例にまで遡って検討し、業務のプロセスを抜本的に改革しており、BPRの手法による改革の模範となる事例です。申請者と行政の業務量の削減と必要経費の解消による無料化の実現は非常に大きな成果です。

【常葉大学 酒井 専任講師 から一言】

改善の第一歩は、既存のやり方を疑うこと。今まで行ってきたことを漫然としていれば、決して実行できなかった改善だと思います。制約があるから無理だと決めつけるのではなく、制約の中でどこまでやれるかに取り組み、成果をあげた、お手本となる素晴らしい取組だと思います。

治山施設の維持管理における効率的な点検方法の構築

【優秀賞】

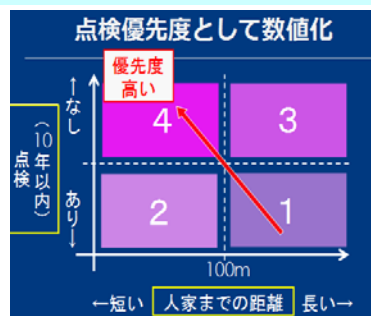
フレッシュ大賞

【中部農林事務所 治山課 治山班】

【点検すべき治山施設の抽出時間を年間900分短縮】

管内7,500の治山施設のパトロールに膨大な時間と手間がかかっていたため、施設から人家までの距離と点検履歴を基に、施設ごとに点検優先度を付け、点検施設を抽出できる「状況変化表」を作成しました。

その結果、早急に点検すべき施設の抽出時間を年間で900分短縮できました。



改革②状況変化表の作成

No	工事	年産	治山台帳ID	過去の点検結果			詳細	点検優先度		
				健全度	健全度	健全度		建物までの距離	最終点検年	点検優先度
1	谷止工	S53	353-201-015	...	III	2017決壊 W=5.0m H=0.5m	50	2017	2	
2	谷止工	H13	413-201-022	緊急性高い施設	80	2002	4	
3	土留工	H8	408-201-036	I	...	I	170	2018	1	



【静岡大学 牛場 准教授 から一言】

県民の生命・財産を守る治山パトロールは広範囲にわたるため、マンパワーだけに依存しない「仕組みづくり」が重要です。今回の取組は、ボトルネックである時間的制約がシンプルで明確な基準により克服されています。こうしたことが、若手職員の新鮮な発想によって生まれたことは高く評価できます。

みなとコンシェルジュのAI化！ ～ICT導入で持続可能なサービスとSDGsな港を実現～

【優秀賞】
広報グランプリ大賞

【清水港管理局 戦略広報チーム】

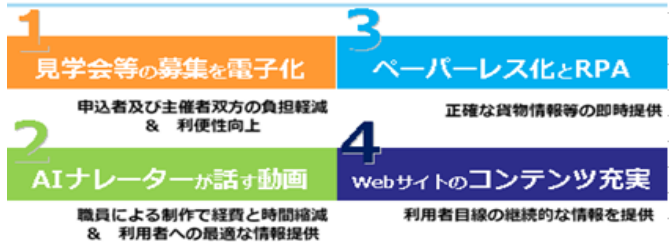
【利用者の利便性向上と効果的な広報活動を実践】

国内外から多くの人が集う清水港では、開港120周年記念事業等の開催を控え、経済波及効果の拡大を目指し、清水港に携わる一人ひとりが「みなとコンシェルジュ」として「効果的で継続的な仕組みの広報活動」を実現することが求められていました。

そこでICTを活用し、主に4項目のソフト対策を推進し、利用者の利便性を向上させつつ持続可能な仕組みと業務改革を実践しました。



ICT導入で持続可能なサービス



最小限の時間と経費で

利用者の利便性向上



最大限の広報活動

【静岡大学 日詰 教授 から一言】

清水港の訪問者に対する多様なニーズに応じたサービスを提供する仕組みを構築する際、ICTを活用したこと、さらに国連の持続可能な開発目標（SDGs）との接合を図ったことはとても優れています。さらにこの取組を通じて日常の業務改善ができたことも見事でした。

動画で残す技術伝達（新幹線騒音編）

既存事務の見直し大賞

【環境衛生科学研究所 大気水質部 大気騒音環境班】

【作業内容を動画で保存してスムーズな技術伝達】

新幹線騒音の調査業務に関する技術力の保持及び職員間の伝達を図るため、紙媒体の事務引継書やマニュアル等ではなく、作業内容を動画で伝達することを試みました。

これにより、パソコン上で何度でも作業手順を確認できるようになったため、技術伝達がスムーズに行えるようになりました。



【常葉大学 酒井 専任講師 から一言】

これまで引継ぎと言えば、文書による「マニュアル」を作ることが当たり前でした。しかしながら、作業を伴う引継ぎであれば「動画」による引継ぎの方が伝わりやすいのは明らかです。言われてみれば当たり前なのですが、これに気づいて改善するのが難しいところ。素晴らしい取組だと思います。

官民連携して猪之頭区の地域活性化を実現

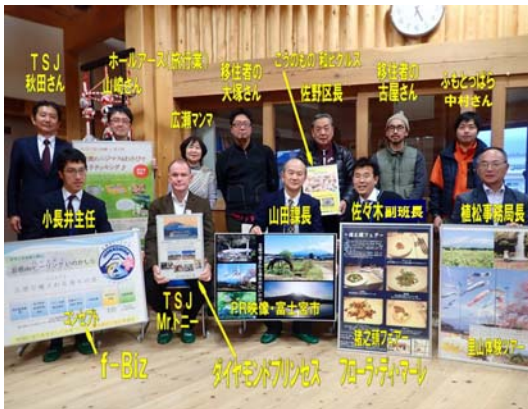
県民サービス向上大賞

【富士農林事務所 農地整備課 基盤整備班】

【農山村体験ツアーなど数々のコンテンツ作り成功】

富士宮市猪之頭区の地域資源を十分に活かすため、所内にプロジェクトチームを作り、職員の持つネットワークなどを活用して、農山村体験ツアーを開発しました。

このツアーがダイヤモンドプリンセス号の平成31年秋の寄港地ツアーに採用されるなど、数々のコンテンツ作り成功しました。



官民連携して猪之頭区の地域活性化を実現



里山体験ツアー



ダイヤモンドプリンセス号の2019年秋寄港地ツアーに決定



和ピクルス120個製造



インバウンド用映像 共同制作

【静岡大学 牛場 准教授 から一言】

地域活性化には、新しいアイデアを生み出す開放的なソーシャル・キャピタルが必要です。猪之頭区では外部の応援団を巻き込むことで、この新しい連帯が生み出されています。その結果、マーケティングの観点からも優れた商品や観光プランが登場しており、地域活性化のモデルケースと言えます。

放置竹林の竹を活用した地域活性化！学生とNPOの取組

連携・協働の推進大賞

【農林大学校 教務課 研究班】

【NPOとの連携で竹チップ堆肥や黒にんにくを製造】

学生の実践力養成を目的に実施する企業等との連携活動の一環として、学生が掛川市倉真（くらみ）で問題となっている、放置竹林の竹の活用をテーマに取り上げました。

地域活性化に取り組むNPOと連携し、竹チップ堆肥や、販売単価の高い黒にんにく製造のビジネス化の目処が立ち、放置竹林の解消や、地域活性化が期待されます。



連携により、アイデアを具現化し、地域に貢献、継続性を確保



【静岡大学 日詰 教授 から一言】

放置竹林の竹を地域活性化に結びつけた優れた取組です。農林大学校の学生と地域のNPOが連携して課題解決のプラットフォームを構築し、竹を新たな資源として活用する方法を編み出したことは見事でした。

今後は、この取組を通じて、地域経済が一層活性化するように地域との連携を強化してください。

会計書類受払管理業務のシステム化 (書類を「さがす」手間を減らして業務を効率化！)

ミス防止・コンプライアンス大賞

【出納局 出納審査課 県費第1班・県費第2班】

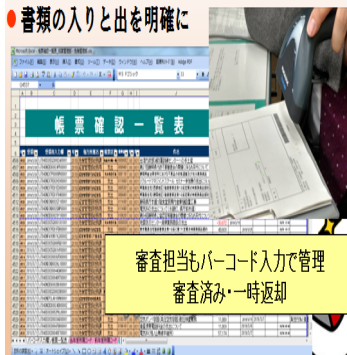
【書類管理をシステム化して 業務効率化と書類紛失防止】

会計書類の収受について、財務会計システムのバーコードを活用した「受払管理システム」を構築しました。

その結果、効率よく書類の受払管理ができるようになり、所在確認のための探索時間と労力が激減し、書類紛失の未然防止にも繋がりました。



- 書類の所在管理が簡単に
- 書類の入りと出を明確に



防 執行所属、出納審査課の双方で会計書類の受払管理
会計書類紛失の未然防止

減 執行所属：会計書類の審査状況や所在確認の件数 減
出納審査課：審査状況、所在確認の対応時間 減
審査時間の確保・審査の質の向上

早 会計書類の滞留期間が短縮
執行所属、出納審査課の双方とも
早く次の仕事に取り掛かることが可能に

【静岡産業大学 小泉 教授 から一言】

通常はミスの防止と業務の迅速化・効率化は相反する関係にあります。本件では既存システムと連携した新たな手法を構築することで、支払い漏れのチェック等のミスの防止と業務の迅速化・効率化を同時に実現しており極めて画期的です。執行所属用の簡易版を配布してダブルチェックを図る点も優れています。

☆平成31年度の取組方針☆

静岡県行政経営革新プログラムの取組の柱を踏まえ、
P D C A サイクルによる継続的な改善を全庁を挙げて推進

①働き方改革の推進

- ・「やめる・へらす」という視点で身近な業務の改善を積み重ねることで、事務の簡素化・効率化にかかる取組を推進し、県民（事業者）の事務負担や職員の事務負担の軽減を図る。
- ・県民サービスの担い手として質の高い行政サービスを提供し続けられるよう、職員が心身ともに健康で働きやすい職場の実現を図る。

②ICTの利活用による業務革新と行政サービスの向上

- ・ICTの積極的な導入、利活用により、行政事務の効率化や行政サービスの向上を図る。

③ヒヤリ・ハットの共有とコンプライアンスの徹底

- ・全庁的にヒヤリ・ハットや失敗から学ぶ体制づくりを推進するとともに、適正な事務執行の必要性を全職員が改めて認識することにより、公務員としての法令遵守の意識付けを徹底する。

④民間・市町・地域との連携・協働の推進

- ・多様な主体と連携・協働することで行政課題の解決や事業の推進を図る。

⑤若手職員をはじめとした更なる改善意識の醸成

- ・若手職員が積極的に改善に取り組めるような雰囲気づくりや職員が一丸となって積極的に業務改善を行えるような組織風土の醸成に取り組む。

静岡県 経営管理部 行政経営課

平成31年4月発行

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 電話：054-221-2912 FAX：054-221-3659

E-mail gyoukei@pref.shizuoka.lg.jp http://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-030a/